

## 【特集】

鳥取大学地域学部設置記念

鳥取県 中華人民共和国吉林省・大韓民国江原道交流10周年記念

# 北東アジア地域学国際会議

期日：2004年7月27日 7月28日

会場：鳥取大学地域学部

# 「九州・福岡」から見た北東アジア地域間協力関係の展望

石川捷治

(九州大学大学院法学研究院、九州大学韓国研究センター)

はじめに

この報告は、「九州・福岡」という地域を中心として、そこから見た北東アジアの地域間の交流・協力ネットワークの展望について、政治学の観点から考察するものである。

最初から私事に渡ることをお許しいただきたい。私は敗戦直前の1944（昭和19）年10月、中国東北部大連市に生まれ、翌年5月、旧制中学の英語教師であった父親が応召し、シベリア抑留にて死亡、1948（昭和23）年7月に日本に引き揚げた（私の祖父母が大連に渡航したのは1911（明治44）年である）。このような自らの人生とも重ね合わせて、北東アジアの平和と地域の安定的発展への熱望と関心は、学問・研究以前に既にあった。現在、専門（本来はヨーロッパ政治史専攻）ではないにもかかわらず、国立大学法人では唯一の九州大学韓国研究センターの仕事を引き受けているのも、そのためである。

国家というフィルターを通してではなく、「人びとが生活している空間の広がり」と、そこにおける社会関係を示すもの」としての「地域」から、そこに暮らす人々の視点から考えてみたい。

## 「九州・福岡」の地域としての特徴

- ・ 古代よりアジア大陸・朝鮮半島との深い交流関係（歴史的・地理的關係）
- ・ 朝鮮戦争時（1950年6月29日）、福岡、八幡、戸畑、小倉などに空襲警戒警報発令・灯火管制の実施
- ・ 今日の日韓交流・協力の状況（資料参照）

交流・協力の主体としての地域・自治体・市民

### （1）国家建設から自治体建設の時代へ

ローカルに封印された能力をローカルに解放する。

自治体建設はピース・メイキングである。

### （2）自立と自治

「生きる場」としての「地域」は、人々が「生きる」ということ自体がもつ柔軟性や重層性ゆえに、様々なレベルでの人々の一体感を伴う空間を生み出すとともに、歴史を通じてそうした空間の変容や消滅をもたらすことになる。

## 北東アジア地域間協力ネットワークの構造

## (1) 地域間経済交流の進展と北東アジア

戦後北東アジアの地域形成

経済交流の進展

- (a)「海峡経済圏」(b)「環日本海経済圏」
- (c)「環黄海経済圏」(d)「北回帰線経済圏」
- (e)「東アジア地中海経済圏」

cf. 小川雄平『東アジア地中海の時代』明石書店、2004年、100 - 126頁。

## (2) 北東アジア「安全保障共同体」をつくること 政治的側面

市民的な共同体意識

「地域秩序」の5つのタイプ

ヘゲモニー争いを含むパワー・ポリティクス

大国協調

安全保障レジーム

多元的安全保障共同体

ゆるやかな結合

「人間の安全保障」

- ・ 専門家や政策エリートだけでなく多層的レベルにおける市民のネットワークへの拡大
- ・ アイデンティティ
- ・ 市民的公共圏

新しい「地域秩序」と自治のあり方を求めて

- ・ 「九州・福岡」から見る地域間交流・協力の中核としての「日韓共同生活圏」
- ・ 大学・研究者 知に基礎をおいた専門家集団の国境を越えたネットワークの役割

## 参考文献

- (1) 石川捷治・平井一臣編『地域から問う国家・社会・世界 - 「九州・沖縄」から何が見えるか』ナカニシヤ出版、2000年
- (2) 石川捷治・平井一臣編『終わらない20世紀 - 東アジア政治史 1894 ~ 』法律文化社、2003年
- (3) 小川雄平『東アジア地中海の時代』明石書店、2004年
- (4) 宇野重昭・増田祐司編『北東アジア地域研究序説』国際書院、2004年
- (5) 増田祐司編『21世紀の北東アジアと世界』国際書院、2001年
- (6) 宇野重昭編『北東アジアにおける中国と日本』国際書院、2003年
- (7) 藪野祐三「自治体の国際戦略」岩波講座『社会科学の方法11』岩波書店、1994年

### 東アジア地中海経済圏



出所：小川雄平『東アジア地中海の時代』明石書店、2004年、105頁

参考資料（資料提供：福岡県国際交流課）